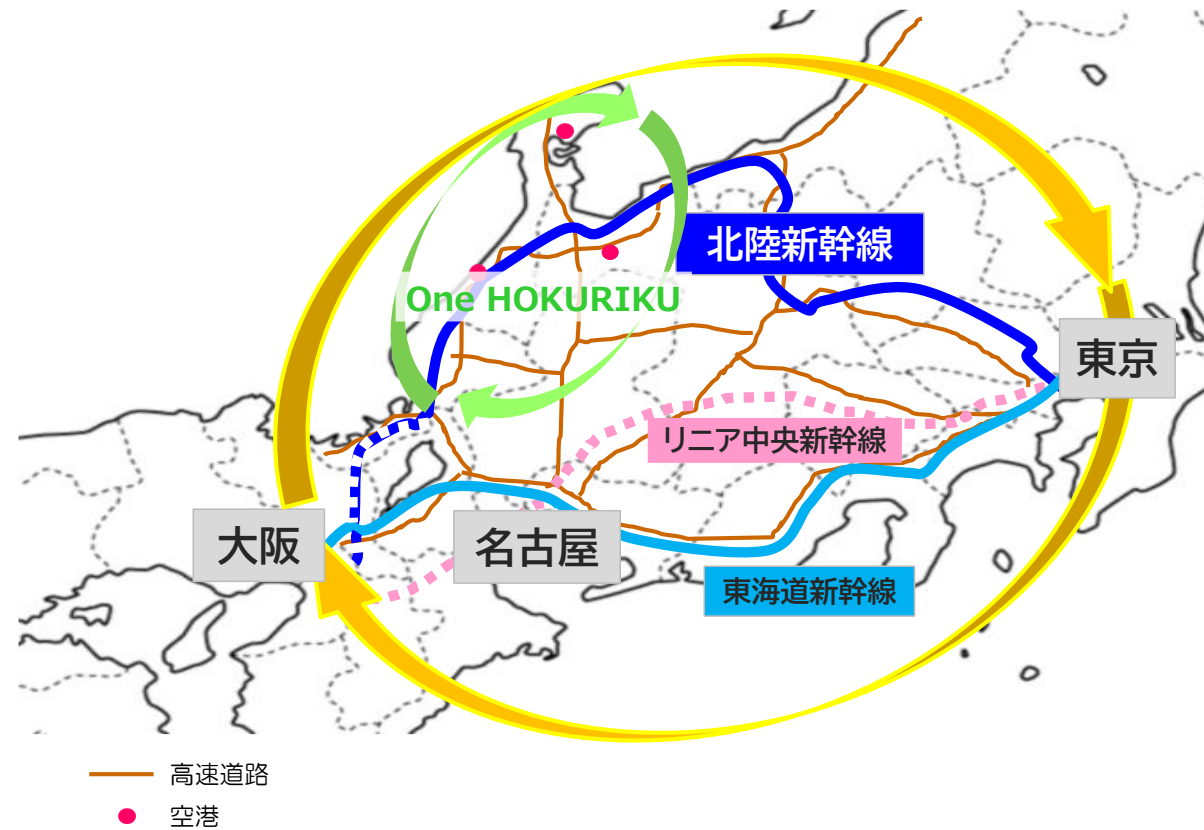


【一つながる北陸・拓く北陸・魅せる北陸ー 地域経済循環の構築により 少子高齢化・人口減少社会に対応し 人々が豊かで幸せに暮らす北陸に】

三大都市圏と北陸が繋がる「大経済圏の形成」 (高速鉄道網、地方空港、高速道路網等によるゴールデンループ)



【ゴールデンループの概念】

- 『ゴールデンループ』は、第四次中期アクションプラン（2016～2020年度）で当会が提唱した観光ルートの呼称で、太平洋側の東京ー大阪間の観光ルート【ゴールデンルート】と北陸新幹線を経由する日本海側の観光ルートを結んだもの。
- 第六次中期アクションプラン（2026～2030年度）においては、将来的に北陸新幹線・東海道新幹線・リニア中央新幹線の3軸で形成される『高速鉄道網』に加え、国内のみならず海外へのゲートとしての『空港』、物流の基盤となる『高速道路網』により、「国土強靱化」への寄与のほか、「広域観光の推進」や「デジタル革新の進展」等も相俟って三大都市圏と北陸が繋がり、地域経済循環を持続的に生み出す「大経済圏」の基盤（ヒト・モノ・カネの交流・循環）を示す。

【『スマート・リージョン北陸』に込めた思い】

スマート：「デジタル技術をフル活用した姿」

- ・先端的、ハイテク
- ・賢い、しなやかな（柔軟性のある）
- ・カッコいい、洗練された
- ・便利な、快適な、安全・安心な、幸せな

2.0：「第五次中期アクションプランの実績を踏まえたアップデート」

- ・「ゴールデンループ」の概念を観光ルートから地域経済循環を生み出す基盤に昇華
- ・オープンデータ利活用の推進など新たな挑戦と、それを受入れる寛容性の発揮
- ・D & I からD E I、更には一人ひとりのウェルビーイングを推進

つながる：海外を含む域外との地理的なつながりに加え、域内外で心理的・心情的な関係性が広がり、繋がっていくイメージ
 拓く：寛容性を高め、外から多様な交流を呼び込み未来を拓くイメージ
 魅せる：魅力的でブランドがある地域を目指すとともに、情報発信を積極的に行いその魅力を広く届けるイメージ

●北陸が目指す将来像『スマート・リージョン北陸2.0』

- 三大都市圏と北陸が繋がり、ヒト・モノ・カネの交流・循環を生み出す「ゴールデンループ」が形成。
- 人にやさしいデジタル技術（スロー・デジタル）等の最先端技術がいち早く普及する場となり、あらゆる分野での「デジタル革新」が進展。
 - ⇒ 時間・場所の制約からの解放により、海外を含めた北陸域内外との経済的・社会的・文化的交流が促進され、グローバル規模での取引が活発化。また、北陸の各都市が最先端のデジタル技術を駆使した「デジタルイノベーションシティ」として新たな価値を生み出す都市へと変貌
 - ⇒ 観光をはじめ、様々な分野での広域的活動が促進され、北陸における各都市の魅力が「点」→「線」→「面」へと広がり、コンパクトさを活かした一体感のある北陸三県としての『One HOKURIKU』を形成
 - ⇒ 『One HOKURIKU』での地産地「商」等によって北陸三県を跨ぐ地域経済循環※が強く・太くなり、それが三大都市圏と繋がることによって、更に大きな経済の好循環を持続的に創出

（※域内外との交流を基盤に、地域に稼ぐ力と価値を高めていく経済の姿）

●北陸の人々が持ち続けてきた「ココロ」の継承と、新たな挑戦や多様な価値観を受入れる「寛容性」

- 北陸三県で共通する気候風土・歴史・文化を背景に育んできた気質（忍耐力、勤勉性、思いやりの心、情け、人間味、風流など）をベースに、多様な価値観を持つ人々を受け入れ、共生していくための「ココロの豊かさ」を共有し、持ち続ける。
- 「ココロの豊かさ」を背景に、新たな挑戦に取り組む人々を理解し、受け入れ、助ける気持ちを持つ「寛容性」を発揮。

●持続可能な北陸の形成に向けてー2つの目標ー

（*1一般財団法人北陸経済研究所推計、*2IMF資料）

①一人当たり域内総生産（GRP）7百万円

- 大都市圏並みの7百万円/人【北陸の現行水準の1.5倍】を目指す（2025年度北陸517万円/人、東京都1,104万円/人）※1
 - 国で例えるなら北欧4か国（ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク）平均並みの水準を目指す
 - （2024年度 北欧4か国平均67千ドル/人程度 →140円/ドルで944万円、購買力平価レート（93円/ドル）で629万円）※2
 - ⇒ 目標達成に向け、今後も成長が見込まれる新興国を中心としたグローバル需要の積極的な取込み、観光需要の獲得、オープンデータ利活用の推進やイノベーションを通じた価値創造産業への転換等による足腰の強い成長基盤の確立、これらを通じた北陸地域と企業のブランド化が必要

②ウェルビーイングの推進

- 国籍・人種・性別・年齢・ライフスタイル等の違いを「受容」することで、多様な人材がそれぞれの能力や特性を最大限に発揮でき、北陸に住む人々が生き活きと幸せに暮らせる社会の実現を目指す
- 特に仕事を起点としたウェルビーイング（やりがい・自己成長・帰属意識・社会貢献などの実感）を推進し、北陸に住む多様な人材がそれぞれの適性に合った働き方を実現することで、人口減少下においても労働力人口の確保を目指す

（労働力人口150万人規模の維持（2020年国勢調査153万人））